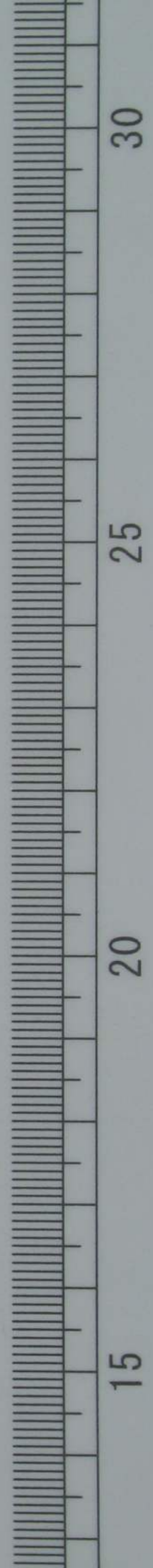




浪花青樓志

全

76
1539



15

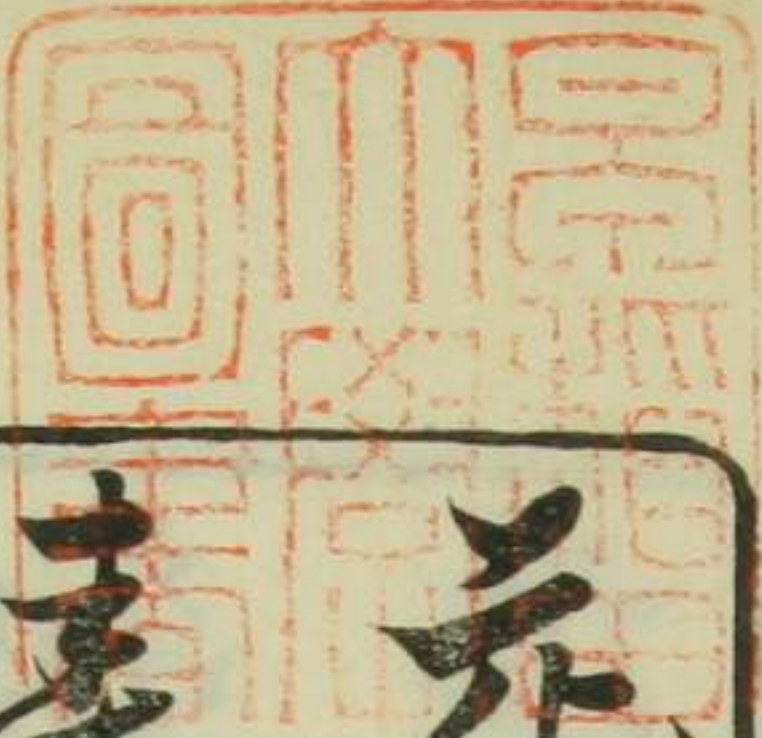
20

25

30

門ヲ邊6
精1599
卷

福華書樓



花柳之地。風月之臺。一
 種春色。別具天然。一入
 境。奚翫爛。和亭觀。尚
 然。况。當局者哉。此。喜
 樓志。一
 所由起也。桃源舊詠。

老之。燬年。照之。乃彼後
之。公。津。觀。境。煌。也。乞。手。
余。保。讀。斯。志。宛。如。坐。花
朝。月。夕。豈。能。日。不。動。情。
情。果。屬。何。人。緣。果。期。日。時。

妾。想。乾。眼。夢。夢。遊。陽。臺。
今。幸。及。強。高。遇。之。一。生。亦
無。涯。者。古。其。姊妹。考。精
却。老。少。長。美。子。垂。杖。縮
地。送。迎。自。在。巧。笑。即。是。寶。

訣。抵情自會玄理。世誠由外
玉真。巫山素女。以遠以嬌。以
才。以色。各得其宜。信我覺
則。蓬。花。蒲。團。上。人。也。及。謂
如。多。難。久。况。遺。風。俗。未。改。也。

毒。治。迷。子。弟。斯。得。之。法。矣。
密。地。自。通。之。氣。海。郎。可。水。
高。牆。飛。度。詎。日。隣。如。窺。臣。
有。情。則。有。緣。有。緣。必。有。態。
後。一。視。今。猶。今。一。視。古。何。

不道造乎筋斗花下。以後
風月。知已哉。為之序

己卯春二月既望石山老

樵漫題



青樓志後序

在中將善屬文其書辭往
往文以雋詠亦唯使人感
憤不已已余友墨子羽嘗
儀式在氏意其在斯乎乃

手自摘其清言以旦夕焉
今乃由是欲以著斯篇乎
亦卒不難矣子羽文克肖
在氏豈非其驗乎近寄忝
余且請有言余受而披之

則業已有序例在豈族余
之言乎敢贊盛事姑應其
索乃爾

子脩漁人題

傾城名人乃名紙種くそ万れてくごあはに
たやうに世れ中か人ほごい中とれた物たを
はるるもかきくものまはく之み通い出ゆる
たう紅葉に鳴麻水に住むたし海く
いつまゝ妻ををいばうらら力をも入まは
志を困れ守をもたれく同れ志をみ鬼れ極
なる人もあまれみとり也土之氣くおとねを
も和くげあけくおやら乃首尾をくはく
海いとる傾城れ一也此傾城名羽れ御宇

傾城名人乃名紙種くそ万れてくごあはに
たやうに世れ中か人ほごい中とれた物たを
はるるもかきくものまはく之み通い出ゆる
たう紅葉に鳴麻水に住むたし海く
いつまゝ妻ををいばうらら力をも入まは
志を困れ守をもたれく同れ志をみ鬼れ極
なる人もあまれみとり也土之氣くおとねを
も和くげあけくおやら乃首尾をくはく
海いとる傾城れ一也此傾城名羽れ御宇

より出来にけり志なき有様も世に
あはれ本村を越中よりとて始を
賑如難波乃あり中紙集の
敷もさざらちと直あてと
がさうりけり一迎に
たははうけりけりかて
くらや香をめぐり茶に湯紙常と
ん言葉やさくともぬぐはぬ
すねとさいぬすい乃始なり此
二つと

あはれ乃らけり此ゆめとも
あまりけり此ゆめともぬぐはぬ
むの乃一つとさいぬすい乃始
は香をめぐり茶に湯紙常と
くらや香をめぐり茶に湯紙常と
ん言葉やさくともぬぐはぬ
すねとさいぬすい乃始なり此
二つと

若くはさゆねよのまにけりまゝるはる
か事よちゆらやほくらん

とらる成る一ぼりほりまをぬり客

此里又通ふまはさど東にれ流れ小と
乃ゆらはくさる

とらる成る一ぼりまはさりぐ客

ゆらとられぬらこみあなうほくらを
踊おどろ文ぶん作さくうき一ゆらほ

とらる成る一ぼりまはさりぐ客

此里てきつらゆらりりるにのうらぬ
まことまゆらゆらゆら

とらる成る一

今れ世の中乃客をんん中らみぬりふらる
よりあごさうれとら一こまらとらぬ
ばとぬぬ乃客と埋ま本れ人志わぬこ
たりと花すたほみ出らんま事あはあ
とぬらとら一人のまゆはあんなほけつ
風情ぬちあるハヤと張せんこを便る

揚屋又ほしむあふさハグンとて大よ勢
ふんこ紙よじふくのかくさむさか
ねらうちうとちうらしき心志の有れ
いあはれはれぬるまた人ほくさふしけ
ておほしけふん紙のしむ身よとだぬ
のもしさんあぬり富士れふよとん
枕れあふ紙しむね虫の音よはらうぬ乃
ぬさうりをとろくし高砂住の江れね
相せ乃やうふしむかり男ふれ若紙あふ

て長かーれ一内紙く紙をもへ紙弾
ほさうりりり春のあこれ日月の
秋れ夕のぼんろくと枕高藩きく紙
と年ぶるととと紙解はきこしほぶ
を買い初らみれ紙つた雪紙津も紙
家寝れ向き紙をげれ吉野川を紙
て紙い立を根りり今を富士屋れ紙
紙中紙も紙紙をらと紙紙紙をの
りるつめしよらかくほさう紙中
ふとふと

去湯のはより身後しらほりきる彼母や
能懐買れやうきと志りりんほと敵心候なり
ハ助六りよみやんしとめて助六ハ伊勢なるが
下にうん事かてかんと有りの此んしを
産て又もとどねる人ハ淡川の瀬くふまへ
まん久が物狂りきめばり客も多しとん
有らうらんといぬくのりもきり客も多しとん
三人りはんり有らり突りぬ多しとん
ぬがいにやん来る五十余り六十あてり

ぬその名はついでる黒とるなりらゆじや
あひまのたまろとぬと澤とたるとは
すだろりぬとハ西よかける花れ移る
かいたきとゆ一扇子屋夕霧と其ん
やとく言ふやとん志屋の目んくは合
とぬし残れととあ伽羅れとと丹波や
井向るとと紫とるととぬ身ふた
どいととあて人の女房乃よれ縮とと
あてとと芳塾屋物と角ととゆとと

さくしと始おりりぬけどいほごヶ月れ膏
乃ぞよめあふあがびく一丸や小富士を越中
にさりゆらうあふぬと知りん第とおやうり
おねりきふ有るうあふ心くしとゆべ
きさぬをう丹はやまゆらほとのさぬぬ
はらをうりういぬさくははあふらだめ
花ぬさくまきぐお一はのおそのまは
ゆら雲野うよめけくあはなのいじらうり
字活よじらるる雲のぶくまぬまりま

からん今何と一町乃るをあぬひたし
おれふすくあぬるくはくしんらぬり
よりし盤く通しふれ里の上ぬぬんし
つあし乃まそと忘れぬりし事し
たし今とくそなり後れそめと侍り
しと寶曆七年丑の六月八はくし
乃浮客とふふの顔りぬれ摺れ客揚結
買れ惣友あふささるるのるぬりぎや衣
紋はくしふは男客各があふり未東

記よりわね花街の故実自れおのりくても
之は傳へし一變とて傳へしこの地家も
兼はさしうすなりなりあて後の代は
かきぬさしきくやし河日常盤り
此の所に居て子孫伝へるにうらぬで又
盤と妻ははけて了る客れさし伝へし此書と
なるとしむりし格伝へし盤とれ時をん
上代の風伝新とあるは今よりいさか
まてま付て信花青様志とよかく此

ぬじきさしむりし山下水伝伝と初らど
て伝れまは砂の敷かざりたり日敷今う
飛鳥川の湊めなり女房や茶やあげや
のりも習り傳位せん家持とあるま日記
と春れ花白いとくるくしてさしきり
のり伝の表乃長き伝とて好む思ふ人の
耳をたさし且古家り命は私とく
ねらりくくは今伝むりにあさ
ほく又さし川伝のさしい古此地

み久く通してはまよみくもくもく人たわ
るあまのころとたれみあふれをきしよらこ
じわる彼の中入道そにきくちりて身
信のまよもりわらふなだしむ時わり
あそきもく假城の文字有る紙や牙法
きやの跡を人ぞまゆの位乃ちらも失
とてそよ本乃ちけし長く律ありり客
乃さぬとありりるまれ意^か氣^き化^ぢを得るん
人古大をまの月紙るるがわくいあへ

そりまきしん

今紙まうんぎしわうを

浪花青樓志目次

景勝第一

舊廓移當所紀原

近世曲輪之号

大門口并蛤門

瓢箪町

佐渡島町并大東新道

越後町并阿波座揚屋町

葭原町

新京橋町

新堀町

九軒町

佐渡屋町

木村屋又次良遺趾

蕪姬遺趾

佐渡島勘右衛門遺趾

十八公宅

串童宅

岸木宅

幸齊宅 附山宅

瓢箪橋

片葉芦

雛妓淵

流螢澤

越中橋

櫻桃宅 附櫻桃井

酌子掛

高瀨庭
道者橫町
瓢簞小路
觀音裏
難波裏
槽裏
觀濤臺

藝文第二

夕霧艷翰

吾妻自函贄
細見圖
游里未來記
雨夜問答
杜撰年代記
評判
井筒過去帖
届文

歌舞第三

筳節曲

幼樣踊

大會踊

三勝唱歌

祭禮拍子曲

妓品第四

大夫附出世大夫

天神附大小見世

鹿子位

和氣

新造

若眾女良附歌妓

月

影

汐

引舟

離妓

香車

妓院第五

傾城屋附忘八女良屋

茶屋

揚屋

夜見世

六頭子 附牽頭

行事第六

紋日 附表 着二日 着三日 着

傘記號

門立

大夫天神運長持

呼立

喚迎女

七夕立花

三月花市

門出饗應

顧老 江 贈小袖

高舖第七

大夫白粉

虎屋油

阿万膏藥

長四餅

信濃屋蕎麥麵

女郎饅頭

阿澤菽乳 附 鬚菽乳

三社擲錢

故事第八

局門幟

惣判形

限太靴

上言絞出

觀進太靴

回番

番人改人

佐渡屋町成瓢箪町支配地由來

瓢箪町通不立端午幟由來

衣裳着

雜話第九

朝鮮人來曲輪

郭下方言

往昔雪踏替薄臺由未附二齒下馱

傾城町屏障

綿屋六右衛門

大内蔦

夕霧伊左衛門事實

椀久事實

助六事實

備前屋清川事實

京屋阿琴事實

傾城買

捨小舟

格子見世

丸屋小富士事實

丹波屋井筒語

繪屋吾妻好奇

大坂屋淺茅生語

又次良石碑

蕪姬奇進唐戶附石碑

蓋此舉也以老師果生所傳者為編輯一
帙也然而力不足辭不次識者其以為簡
字豈待予言哉則踈漏所不必問焉



每韻必有印記

若無者係偽刻

下下よりより来来よりより永永免許免許の地の地ををれればば夢夢
ををななくくぬぬるる妓妓院院乃乃盤盤石石然然るるはは燈燈のの方方をを照照すす

繪屋吾妻好奇
大坂屋淺茅生語

昔無茶新餅
每騎必育明暗

浪花青樓志

景勝第一

舊廓移當麗紀原

天正より慶長ははしど
御城下み定るる傾
城町と云ふは其く又七町或は十にみおつる所に
殿立や元和れ神より
御城下 御城下
湊一永代又廓と成る今れ瓢箪町と道に掘れ
下西より門来りし永代
免許の地をば豊
をなすおる妓院乃繁花然るは
免許の地をば豊

一今四方妓館れ上りめ所交 國懸乃
廣大なる何をめりてり 報謝し ちよるべき
也 忍も怪らむべし

近世曲輪之號

五十鈴川れ流れ清く川海 奥澤は海し松
風れ青き人万歳流流の流代と成るふ所い
日小橋来み流て乃繁花正保慶安の地まで
よ当地は集令して大廓造立れ 許命又は
町々 事實 輒 筆 蒙り 往來 人 口 不 少 出 入 下 可 也

廓と号は又此地裏尻布街乃界は壇瓦
らしちこれよりして曲輪れ文字は用ひきこる
此地根本は故実とて新に造立れ市街るんば
俗は新町と號せり

大門口茶蛤門

茶街造立れ始まては西にむりたり日表番
人を金鎗戦素然して煙火厭ふり門の内
之賣垣有裏町小浜町 俗云 砂場 山本町は接り
尔来寛永の比東にれ大門口 許命者

西横堀孫右衛門町最なる町順交町通り紙
經之傳者還者群集紙たるり有享保十二
年北比右原町大門口を蒙許命保之長堀
守和島町南小堀江紙受寶曆四年北比立
賣堀失火以後新立橋町大門口之の許命
有之立賣堀助右衛門町小堀直に大川筋まで紙
交り冬佐波橋町東口大門口より最なる町を交
寛文六年十二月八日新立橋乃旧宅より失火と
其後消火の便なし為小堀方大門口許命有

去に貞享元禄の比何で度々此様出し有之
其後不詳物附圖了り右原町始追日福方通
路自由なる一昼夜往來十合み後たり正徳の
比一街くの界は街小門有古保九年乃失
火より小門再造又拾門と云稱も新立橋町
立賣堀失火乃時火のあつて口一故拾門と
身なり承應二年中狼藉者なり結捕ありふて
長道具鉄刀等許命有之有保九年の
失火より東西れ大門口より

瓢箪町

道頓堀乃下に在りて
依り元和此始當所移り本村屋又治府町に
又又しやうし町と名付し又又治府町本村
長門の乳母を本村氏より又治府町本村氏より
拜領し令の河馬市の瓢箪を賜しより街名
瓢箪を採家號み姓は文字採りて言ひ
傳ふ大和年中役系は故際ありて江総に傳
還の通路自由なると通る所と稱せり

佐渡島町 又 大東新町

當町を寛永十二三年に治まじ上博常町
妓館ありし其地也當所引移り佐渡島町
所ふより姓採て町名とす又大東新道と
呼ぶは當町入口より米丁西右原町、出る
路なり寛保二三年に此所之依り新道とす
越後町 又 河波庄揚屋町

佐渡島町の大西揚屋町一丁の古ありて街の
小門ありしに寛保九年失火より佐渡島町乃

支配と成りて加治を關する此町河波橋筋揚屋
町より引ありと其年季不詳

藤原町

當町三浦藤原より正保慶安の比門橋り
文字紙記して右原河と書付り又其比川口
朝家より引ありとる者も有り也

新庄橋河

新庄町

元和寛永此比河波新庄より引あり一筋二名

有々上の町下_モの町と云ふ上_ニ東町_{ヲ云}を以て張町下_モ西町_{ヲ云}
を合右橋の町と云ふ一宝永二年申末紙新庄
橋町西を新庄町と改しと云傳ふ又之賣橋河波
橋筋筋揚屋町より引ありと云ふ説有れども不詳
上紙五曲橋と條を

九軒町

此町花街の餘地とて若く同屋かど雜居やに
方れ商客素集や一日妓女紙振きりり揚屋
橋より引ありと云ふ同屋より瓢箪町おね

東の初尚^{ひがし}は付還^{ついで}の石^{いし}飛^とき揚屋^{やうや}町^{まち}と成^なる時代不^ふ
詳^{しょう}也^や故^{ゆゑ}は尚^{なほ}的^{てき}よりして町^{まち}役^{やく}たり又^{また}九^く軒^{けん}町^{まち}と
成^なる九^く軒^{けん}町^{まち}有^あり故^{ゆゑ}は付^つくるとも成^なれども付^ひ着^{ちやく}同^{どう}
屋^や十二^{じふに}軒^{けん}ありし町^{まち}ありしは町^{まち}名^な有^あり也^や未^ま詳^{しょう}又^{また}
故^{ゆゑ}町^{まち}と成^なるも五^ご曲^{きよく}輪^{りん}と年^{ねん}表^{ひょう}は下^{した}知^ちはる家^けと成^なる
故^{ゆゑ}町^{まち}と成^なる

佐波屋町

當^{あた}所^{ところ}は九^く軒^{けん}町^{まち}の西^{にし}と接^つて餘^よ地^ちたるは九^く慶^{けい}安^{あん}の
比^ひ高^{かう}麗^{れい}橋^{きやう}筋^{すぢ}佐^さ波^は屋^や某^{なにか}地^ち領^{りやう}の地^ちと成^なる町^{まち}名^な分^{ぶん}明^{めい}
也^や

たり其^{その}は立^た賣^う極^{ごく}完^{かん}喰^く屋^やは市^し本^{ほん}門^{もん}入^い道^{だう}宗^{そう}南^{なん}院^{いん}
居^い家^か鋪^ぽよりして支^し配^{はい}の度^ど又^{また}は良^ら形^{かた}なり
今^{いま}は瓢^{ひょう}箆^{へい}所^{ところ}の支^し配^{はい}と成^なる完^{かん}喰^く屋^やハ立^た賣^う極^{ごく}屋^やと橋^{きやう}
名^なのと強^{かた}なり

木村屋系は市遺跡

瓢^{ひょう}箆^{へい}町^{まち}系^{けい}はより三^{さん}丁^{てい}目^め小^{せう}側^{がわ}當^{あた}時^{とき}標^{ひょう}屋^や某^{なにか}
龜^{かめ}屋^や某^{なにか}の居^い所^{ところ}地^ちなり享^{きやう}保^ぽ九^くと年^{ねん}失^{しつ}火^かより
宅^{たく}を配^{はい}當^{あた}なり其^{その}已^い前^{ぜん}より人^{ひと}移^{うつ}りしとも是^{こゝ}を不^ふ
明^{めい}也^や

基壇遺跡

右西隣當時大竹屋某住居此地なり其基壇の寛文
のは新屋清春とらひて居たりし家入負ししく
元初新築此跡の代り小基壇を築き其跡を收納
せりとのりて跡なり其末今も之なり

佐渡島助右衛門遺跡

佐渡島町東にあり一丁目十字街西小隅より
二ヶ不同の家今大坂 佐渡島ありて門懸の家士れり此画なり
町にて佐渡島助右衛門とらひて居たりし家士屋

と居たりし正徳の末家保れ始の地なり

松宅

新庄橋町土橋角西往く小側灰屋某宅今庄屋某 佐渡島

かよふ松ありて松樹有為とて同解偃蓋九二十間

餘因て松中きく松此松正徳元年四月八日

立賣助右衛門町竹屋失火し煙ぬ必俗竹屋失

事とも四月八日焼ともて或は云く飄々軍町

右屋全れ松ともり未詳

串董宅

又優宅に在る共日

大松中より南西隅に亘り水道の側まで此宅の
室永の法原本や某原紙切て賣りしりしとて
串童宅と名付尚所東側之を不と成り

洋本宅

大優宅の向い東小隅に亘り此の宅あり昔は
横町として出入ありしり依て洋本宅といふ

幸毎宅附丘宅

右原町大西 佐後島町原本を以て
十字街若原町は南入に有 此の宅あり昔は
左少く東より有 別よ入
に有 是より西行ありまじく

假丘 つぎ ちりちり あ 坂 か 山 やま 中 なか 庭 てい 中 ちゆう 佳景 けい 任 にん
侵康 しん 樂 らく 殿 てん 口 くち 不 ふ 及 じやく 諺 げん 日 じつ 不 ふ 及 じやく 瞬 しゆん 假 か 丘 きう 景 けい 景 けい 景 けい 景 けい 景 けい

瓢箪橋

寛文十二年西横河原慶町通り、瓢箪町
よりい橋紙染有、尚町の名紙より也、新
街をいし、街をいしを新町と名づ、因り倍は新町
橋と標して福園に通標し、今も至り新町
修構をいし

片桑芦

新系橋町南側水道ある片桑芦を生ぐ一
本も片桑をさするいなり一享保九年に失火
と焼ぬ元禄のは一大家より探索し玉ふし
事有り其生る地証考し及れ浮橋箱金町
橋上ル船返の橋の流れ証考し及れ浮橋箱金町
格云ナニハノ橋上難波町仁徳天皇御廟
町筋に引極れ川接き流きて大海へ行くと中途
支流あり此芦をれを今もまき有

難波淵

瓢箪町東に古を十字街西有淵今丸屋
具宅乃新れ下あり但し舟屋の所享保二年に丸
近に屋具抱れ林屋空敷懐ひして新下証考し
やしと眠りて又きたる船桶入臨死を此りして
かづ海があらとよむいあまきり

流螢澤

此名昔上橋町有し町有りし如今指
町と越後町西に橋町西側乃水道此側一傘匠有
は宅の裏とす又佐後橋町當所不極る

に高木授くる言ふ此如塵塚あるに遷る蒸気
堂あり飛くるに月て旧とて用いて此と附
會せしと云ふ經も有

紙中橋

龍筆町通り今番屋某宅に尻水道の向し
九折町あり道乃石垣に側より川の礎有れ
ども追々地紙築くゆきば今地下に礎れ
あるをり昔又此舟抱れ入る紙中門立結
はと舟ありゆし町通り龍集をきり付東

ありがらに今より裏より橋紙架出せしと
紙中橋と云ふ

櫻桃宅附櫻井

元禄のはきに右近に屋某宅身幹とて十抱
むり有り櫻桃有る櫻桃宅と云ふはさくら
下は橋なるありてさくらに清冷なりありと世人
橋ありしと信し水井臺より勝り此櫻桃宅あり
常時賞する人多く幽艶の縁なる常と云ふ
がし惜する此櫻桃正徳元年立賣所竹屋矣

火又燔之と漸みに今より有る當時瓢箪町大
竹屋宅の裏をり大坂之ヶ此名花のゆりてん
法毒とをれを志す一れさささささささささ
故光也さうゆり

酌子掛

新系橋町東行尚る有瓢箪町、出る片側此橋
町也或人に接列能勢郡松生村の後、酌子思と
了多ふ有行ありて曲子とさ意うそ名付付
了故い、擬しての名をりてと云能をり尚

不鑑編の比より向い板塚にて片側町と
水紙作へ向ふ板とる縁語より酌子掛と云
至て古名あり

高瀬之庭

若原町東行尚る入りぬる瀬屋某宅庭
中の假山川模写して風景異なる方地なれ
ばる瀬の危とる正徳元年竹屋失火し
残りて名保丸し奉れ火又焼込し具名紙
かさり傳ふのこ

道者橋町

瓢箪町東にあり一丁目十字街南へよき
町也享保七八年北はまどは東西の敷
側をめぐく局をりし小福園なる者流と
入込しはよりの斯名有今漸に又新築なり

瓢箪小路

西口大門の南に其海たる側の露路なり
ちやうどし町始りの北より北露路なり

観音堂

大瓢箪小路向ふ合世に露地なり其由
緒不詳不^い知^い壺^いれ^い時^い祖^い母^いなり^いま^いは^いに
元禄初れははし重くそ不^い併^いれ^い観^い音^い極^い出^いせし
一^い僧^い是^い其^い事^い敷^い多^い度^いを^いれ^いは^い或^い修^い験^い者^いを^い求^い
めて安置せしと^いは^い傳^いふ^い又^い或^い人^い云^い大^い観^い音^いは
八丁同の肋誓願寺境内に^い観^い音^い足^いを^いり^いと^い又^い此
地の修験者らと正院大室と云明暦二年
末師を建立せりしといふなり其^い也^い寛^い文^い七^いの
三^い終^いに^い此^い末^い師^い白^い髮^い町^い観^い音^い堂^い境^い内^いに^い遷^いと^い末^い師

裏とらふが元糸は石仏出てふいふ
観音裏と改名や〜や未詳

難波裏

瓢箪町東大門口下小側

今小戸地や
住居北西隣の裏

かり負家北はたしんむや某宅より付くる露地
たれは難波裏と名ふ又一説當地の者
下難波めて極くうの時より在る露地を
難波裏とよむゆへ

櫓裏

右原町天満が極くうの時まで江當町内之を
櫓但常者芝居 尚町指和島大門口より
尚町、行當西半丁二丁目 瓢箪町の裏かり者
之は不れ櫓の内より其を不くる露地の裏
て新ゆ

親清臺

右原町當町極くうは此地低長川北瀬
来て楼上の銀燭水と紙照〜登和乃系
之は親清臺をかり其進政微くゆは

多分抗て宇和嶋大門通當町れ行あるあり
の側其影を止む

藝文の第二

夕霧艶翰

瓢箪町扇を屋某 夕霧新館の抱しと別艶
翰紙其家におおと夕霧も寛文の末延宝れ
比のたましとて死後 顧老葬送流立流し移い
し好まそにふるまひり下寺町淨園寺
郷に出掛し墳墓をり花巻芳春と法名と
延宝六年

午正月
六日死す

吾素白画賛

佐後嶋町家士屋某 助太夫の遠趾の抱のたましとて
尚也身法の権輿たり 従者二百兩に價を以
恩賞とん今よ玉河原藝社身法之百とぬ
不之當田川色那 唯和名類聚に出 山本北里 唯和
出群候村の部に出 板上下法右名と云大庄屋身法 名一
掛津志郷名を編み 則と法右の遠趾當付西本親寺門下此道場 自画 ト
西宗寺とあると法右の旧宅の中門今なき 自画
一軸も表は紙をてたしわの幹とて其賛に云

身をたすは心は名をあらはし
宅にほたるふ本せん里

此一種とよはなる遺跡西宗寺より蔵ありし
吾妻の寛文ははのたまをりよはなる九折町
揚屋井行屋を界なる室よあそび井を界は音
を修繕して青苔様を製造せり全具は文よ
は定紋の柄を用して花法家の装束をせり
其樓今と比せり

細見圖 一卷

はるかをんを有べううん村後と居をう
をあるを

遊里末末記 一卷

貞喜の比蟻磨教人曲輪れ
此書は作と

雨表問答 一卷

日人乃作やう雨
契經と一の位階圖を綴

笑書と

杜撰年代記 二卷

何人乃能をたふに杜撰れ甚しきものぞ
呼ぶ

評判

毎書ねをたふに深く採りて

并角過去帖 一冊

佐渡橋町丹波屋某抱の古丈時代不詳此
書并角曲端を出る言妹女存、吾若界也
乃れ古紙出はる程々教訓となりて
書をり今も云てま

届文

漂客を便侶門よりゆりて
買しとに先の列深乃妓、今も妓より其
由を告廊中乃例艶穉綺言千變万化
乃好あり

歌舞の事

色節曲

承應明曆時代のころより寛文十
二子し奉之殿を夕夢系より當承よと

船中れ佳景氏時花曲とてささしむ其う
と今のおすまをまゝとらふ曲と行律今に終ら

知様踊

其はる先不詳盛一行まゝは天和貞享れ
比あて元禄末に終らり是と紙に牧とよれ
本偶人切抜其合也紙の中、馬の尾紙引通
一双方乃襦袢持膝乃上置弁と合也
も袖子拍毎具帟本偶人頭系をり本偶
細を付 足紙やとらねどりと標と

大會踊

往者大也踊とてささし八月朔日より十五
日まで客れ終果より三五十人乃至七
八人十人末に五と又六人終々日紙引
て揚家乃、片奏とて打ぬ踊紙借し
二十人終々入替踊を紙をん出立地踊
まは燈籠帽子ささし帷子と羅れ羽織
衣の裾紙腰に奏付印籠巾着かきぎを
括て踊り終る仕組踊者十に五人七人ほど

けりしに乃ち物取奇れ明衣なり佐渡守
傳八令澤五平次為其勢これ風流と付
今宵は何屋乃ち大寄置は来る何屋と
毎夜く乃ち大よせと一表も關わたり
又門下踊るを丁内め取十字街の関
り右支長持は月を人を探との
踏中も物取寄置は登乃ち水く
東雨はゆきよらん乃ち支長は兼
明これ踊られ長持は月を人を探

すばあし物取寄置は来る何屋と
あやほららるるがうき保九と来大
み右支長持は失し門下踊る終る
まの保の末元支はは偶は右支長持
を雙べ関なり一こね合踊る
此来れは編るるがうき保九と来大
より四地ありまは兼み踊場はか
ゆりそららるる乃ち踊るはあし物
入の志輝是來れ先後を兼其場干

焼万燭雪紙こぐや家省く由此地乃一
系成り志に何なる家省くもやをし奉中紙
やう志しながく尚宝曆八年冬をて
再奥し作りて紀原の年よ候さうし
繁るる巻紙よはくしがく例年あ
まほきは此一事を利

三勝唱歌

當所廣橋白當より世に行きしと縁
乃唱奇には元禄ははらやう多し町百舌

屋京踊の者は又作る不なり能奇成
とて其は京換校も紙の付て能奇とは
成ぬ原も京京と白系は半石更板し
無の麦捲乃類高不出作乃物奴多紙う
て其一二を省きて餘を略し作り

祭禮柏子曲

寛保十二こ二年はは為あり六月晦日
月は例年住右大社宮、沖途に花焼五十
画ち之琳様お松紙寫し免出たり其は

尚不足名細氏とて堪能お人有りて記此
 譜より文向氏附三柱と写し細石教様
 乃おめて新子行り此氏大坂中紙屋
 栢子れ皆興りて満堂夏糸禮の念燈
 一さみ小壇尻まぞ栢子方を附りやうと
 なるりねれ花燈敷十海鏡とてとて
 糸糸新子乃沙汰経り
 妓品も等四

古史 附 出世古史

醍醐河字江口白女一条河字蟹島水音口立坂
 江口小親音口中れ君神湊河菰篠鳥羽
 河字湊上子案日若乃茶高倉れ河字
 神湊戸根黒後鳥羽河字江口れ桂本口
 少模橋亀菊等尚西名る江松若りて
 姊乃い君い乃い本庄お堵し七跡
 堂上より出され難者も河内席し一七乃
 祿身代し乃 勅撰乃自糸と裁日定よるも

相繼て名を以て其の末代ありて
身を賣業しありりし右夫れ終不
詳不始後其ま枝の終り方れを按み
職原抄み彈正尹大納言の渥官
史を夫と謂右夫力こと訓とて頭と
の意もろなりし心む事なるも又出
右夫とらる者より今みほりて内
遇り昔る者才と撰で右夫とせし
代い能をのりて右夫とに誤りし

了るし天職乃中より右夫みなり
大きなる員事とす職原抄み謂右
五位下叙内階裁入内勅文假令近衛
右監掃部助ハ六位也五位叙をた近
右夫掃部右夫とらる位回とらる事
又位乃叙辭とて大きなる叙擢と
しと出せ右夫此意めしゆとて又
の法南都春日社家富み来り能
巻真となやみより能れ縁語より右夫

名出づりしは是れをり後樂家は及作城
に附會とす事多しとて或云樂舞に依て
夫とすは是れをりあはるる秦淮士女表曰
明乃神也は女奴樂官に列たりて縵紳
夫乃宴み侍たり此は日本新樂寮と
替たるとる神樂舞馬茶門一具事
い何れども音の味相違り又下賤の詞
とげ但今河原藝芝居に中めて艶なる
者は一家庭と願とせしと夫と唱へて夫

本と名ぶあるは此司となりしりて
大夫と名ぶたりしは位とす夫と名
の叙爵世人善くする家なれば姑合不
天祚附大小見世
ふこれ價投み依て此品目をなせり多
異者れども旧名を不改大小見世其
價投乃法分よりなり
鹿子位
其義不詳園乃文字よりなりて諸経皆

とて採り不足

和氣

古銅を錢目二つめて價乃異名とて故に
分ちり紙相角と文字紙唇或云撫肘紙教
ざしむる紙葉とてねば医家乃姓紙より
て和氣と書と世俗五分取とて

新造

船の依言家より出するなど書かせる事
可有れども紙なり紙ありて紙に造ると

ふれ綴語みりねて新造とて書付たり
又李白詩み借向漢官誰得似可憐飛
燕倚新粧さねみよりて此をさねば新粧
と書と書一のふゆと書

若衆女郎附身枝

寛永永化はらうらふし町大和屋果抱と市
之座とてふ家似城有髮卷立み結白墨表
着し無しぬとせに出入若衆女らとて其
よりお徳て阿波彦上の町

今の新屋京
京橋町

抱内蔵^{くわいざう}助^{すけ}林^{はやし}名^なを^をら^らる^る若^わ衆^{しゆ}女^{にょ}郎^{らう}なり^{なり}て^て大^{だい}和^わ
 負^おま^まれ^れ比^ひ百^{ひゃく}舌^{しや}屋^や近^{ちか}江^え屋^やなり^{なり}と^とつ^つる^る假^{かり}城^{じやう}也^{なり}
 若^わ前^{まへ}女^{にょ}良^ら乃^の表^う着^ぎを^をき^きん^んよ^よ何^{なに}て^てこ^こ経^{きやう}江^え
 深^い女^{にょ}良^らを^を置^お二^に人^{にん}の^の香^{かう}火^かを^を付^つけ^け出^でせ^せり^り此^{こゝ}
 か^から^らに^に舞^{まい}なり^{なり}と^とほ^ほり^り也^{なり}右^{みぎ}女^{にょ}良^ら何^{なに}曲^{きよく}を^をま^ます^す
 更^{さら}ら^らと^と及^{およ}紙^し屋^や来^きれ^れ抱^{かか}の^の香^{かう}火^か膝^かと^と坐^ます^す
 つ^つみ^みあり^り生^な得^{とく}指^{さし}緒^{じゆ}を^をら^らふ^ふなり^{なり}と^と能^よく^くま^ます^すよ^よ何^{なに}て^て
 舞^{まい}子^こと^となり^{なり}一^{ひと}右^{みぎ}女^{にょ}良^ら如^{ごと}く^く藝^ぎ女^{にょ}良^らは^は海^{うみ}へ^へ
 出^でせ^せり^り客^{きやく}の^の心^{こゝろ}を^をた^たす^すなり^{なり}且^{かつ}つ^つほ^ほり^りと^と何^{なに}時^{とき}一^{ひと}旦^{たん}小^{せう}

随^{したが}つ^つら^られ^れり^りお^お結^{むす}て^て諸^{しよ}家^かと^とこ^こ経^{きやう}江^え紫^{むらさ}
 と^と客^{きやく}の^の心^{こゝろ}を^をた^たす^す女^{にょ}良^ら出^で外^{とほ}なり^{なり}と^と藝^ぎ女^{にょ}良^ら
 と^と何^{なに}て^て何^{なに}の^の心^{こゝろ}を^をた^たす^すと^と藝^ぎ子^こと^と何^{なに}て^て
 と^と何^{なに}て^て何^{なに}の^の心^{こゝろ}を^をた^たす^すと^と藝^ぎ子^こと^と何^{なに}て^て

月影汐

一^{ひと}二^{ふた}三^{さん}の^の價^あ敷^し教^{けう}め^めと^とり^りて^て此^{こゝ}ま^ま舞^{まい}臺^{たい}と^とり^り近^{ちか}代^{だい}
 終^はり^り

引舟

大^{だい}船^{せん}進^{しん}退^{たい}を^を助^{すけ}と^とり^り義^ぎと^とり^り出^でせ^せり^りと^とり^りと^とり^り

離妓

往古六波羅に家あり吾付居る妓氏
 音位有る者有ればと答則應に定
 妓のきよ紙をとり元文の法もどけ編む結
 めて織懐み入る歩行しに道し奉ハ櫻子成
 船ヲ括乃抄めてくくを故う身以廢失を
 此編ハ故代長持入る簞笥狭公宮をとり
 編をり小天社已下月經汝の頼ハ局り
 簞笥狭公相鏡臺まで紙繕を又書くす

故小天社に下付居る離妓ハ此編をり約
 束に日柄よく出る日れ妓ハ白居る離妓ハ役
 に出るころに道中の所をく後常ん
 使をし主人の内は住居れ日ハ離妓の使
 常ん出るころに故實迫は廢失に

香車

妓院辨要の婢をり未詳
 妓院分五

傾城屋附忘八女師屋

似城乃文字著く世人知らずわは注釋
を待どと忘八と書ハ按に類書纂要云
忘八言人入于花押之業者其公已忘
却孝弟忠信禮義廉耻之八字云夫とく
はと訓どるぬたり又曰書小鶴四を注
り注鶴乃山中之鳥有雌無雄專典別
鳥交合言娼家多典外人交合正如此
乃女ら屋らむ習りや公考より往古
よび君らむびり由緒あはは上層れ
と

廿七

似用ひありとて又一即カ當及官名
と教を下 許免の地れ在女たるがゆへ女
節々して不若死

素屋

傾城町草創の時より今又相續寛文九年
奉蒙 許命貞宣三ノ年株れお九めよお
定免らる

揚屋

揚屋町と指不ら越後町たり河波を上下

九軒町をぞも古代より有とらんとし先代後
町をさす年季を景徳の命とて可考

表見世

万治寛文乃法と云る二月朔より十月晦日
隔て霜月朔日より翌年二月晦日と表
世なり十月朔より晦日隔てし年中表と世
終とて無霜初より夏たり正二月に表と世
毎年極河頓つり極河延寶三年依
許命元日より十月晦日まで表と世お預け

霜内細より極河晦日迄の登りより
考より大門関了やし年中表と世あり
志は享保九年大坂火後奉崇 許命

六頓子 附 寄頭

類書纂要云生理を不務人人家に
と牽引流標中乃頭よみて行きて
文字此よも極河と云らば
有り尚不六頓子に権輿と云らば
辰本也 二九 疑經語あり其外

高平のあまのむすぶたすれの藤をうすいの石
具名ふる一宇治屋を八雲踏屋を日巻
後と湯云ト元方昭師を焼く柳を湯巻也
瓶後首は竹本お鼻祖とてふ二なる
右ますでうねと徒お直似は板屋をた
日巻らんあやまん八雲を湯巻る一宇治屋
等より上代を産科とてふ事なく客より録
賜りぬ近世の拍ねよよのてをぬゆり
成りてを能くは切の花代を記得とてゆり

ゆりぬ嗚呼古格れ歳失するもとや

行事第六

紋日附 表着二日着三日着

紋日ぬと説有具足飛末考紋日紙通因
文字とて歳中行変れ日紙指ていみ
許命れ於女たれば禁色を禁禁を織也
なり表着に用家直傾坂町乃観換とて又二
日と三日と五日とて五なる力々の日柄の
内とて二日と三日とて二意と名て此力々と

約ヤ一顧老乃方より好奉紅衣裳と制衣セ
剛深の妓小送系其衣裳毎日上下各替日
衣裳其の故其ぬ乃全盛しに此の今古
不易をり

傘記號

長柄れ傘と官家のおりて傾城町の是又
奴様と晴ぬ乃別有りて道中其時
系をり主人の紋めて其家別有り
門立

元和貞享乃比中ぐ有りて元禄末終り

大また天神運長櫃

傾城町草創れ時より傳もりて正徳元と奉
四月八日竹屋火水焼ぬ其後享保二年再造
せしに元九と奉又板火火と終りさうかて貴
のまら長櫃運びと下人に傳有り

字面めて分りたり

喚迎女

（Small handwritten notes or stamps at the bottom left of the page.)

五言のよみ不沼（家出の新造）る中宵時
ハ粉嫩（おとこ）終（おとこ）は葉約（おとこ）の婚家（おとこ）、雛妓（おとこ）来りて上れ
女（おとこ）糸内（おとこ）とは耐上（おとこ）乃女（おとこ）も支度（おとこ）とそ妓院（おとこ）迎
に行其（おとこ）も上れ女（おとこ）も馳（おとこ）某附（おとこ）添（おとこ）倡門（おとこ）のさそは
回終（おとこ）くそ依（おとこ）りある是上（おとこ）れ女の勤（おとこ）をり今言（おとこ）は
志（おとこ）うと

七夕立花

承應（おとこ）のはまごい例（おとこ）し平七月七日衆妓（おとこ）自招（おとこ）て
早（おとこ）れも向（おとこ）とに甚（おとこ）賑（おとこ）くおまめりしと結（おとこ）結（おとこ）ふ

寛文のは終り

二月花市

瓢箪町東口か一丁目十字街（おとこ）左右側（おとこ）とも
様（おとこ）花（おとこ）のほり花（おとこ）をど毎（おとこ）し平花（おとこ）乃市（おとこ）をを也
己（おとこ）允（おとこ）の曆（おとこ）乃はより例（おとこ）年（おとこ）之に月（おとこ）の間賣（おとこ）来り
ありしは雪（おとこ）紙（おとこ）又てる者（おとこ）燈（おとこ）山（おとこ）を斯（おとこ）く移（おとこ）し
あやしそ昔（おとこ）人（おとこ）乃名（おとこ）介（おとこ）を感（おとこ）吟（おとこ）と

門出響の應

此一件（おとこ）今古（おとこ）不易（おとこ）其風俗（おとこ）をり身（おとこ）清（おとこ）ハハ

（おとこ）

より若衆首尾克はくちて曲膝の出る
斯は門中より女妓の時合みはる信軍妓な
ど集會して御合應出る事あり又傍女妓
より其の乃賤別和舟は贈答書あり
後向指のあめを祝かき氏伸駕の花鹿主
家に宿考は舟として差別あり

顧老に贈小袖

昔木村在紙中み田後西ま有て歸ふ糸か
くぬがしみ日柄を後持て歸ふ後まで餘客と

はくちさくちと闘争出れみりねは双方何
まははくちも客れ誼重みよるとつるく口難斗
濁衣の二布縫目より解紐付て西まは贈り
寄て上扱の旨可見今般も濁衣は吾と云
し身み添くぬがしと帰帆有れとて何ま
も不見くを冬飛西まは一件の濁衣積鼻禪
かきと帰帆と此よりとて紙中積鼻禪に記原
とぬ更み紙中れ團の制衣みあは當町と云て
下は綿絆中れ物新よ造裏よ離別れ詠奇

方ど誌て送る事とはたりね又回文書とて
總妓自ら集れ和奇文章をどかしり帖と
るしあくる又色紙短冊をどふも書とむ
其外札をどその尊卑をどりて差有併進由
に餘ゆ紙贈る交昔と差とてども時をた
不及目之飛

高舗 第七

大史白粉

瓢箪町通筋式丁目京極左近制衣とてなまの

名寄定紋まど紙改刊行とて粉匣中よ納
て賣よのく者うさのまよびまわり

席屋油

瓢箪町東口大門左隅招牌よ虎あり
家とま紙誌紙悉一切賣紙堂れ方みまど
名紙悉

阿万膏素

天和の比依後多町依り屋辰屋門とて
医道水通道ヤ者有具比殷実家れ拓

に應^{オウ}トて病^{ヤミ}以^モ瘵^{サイ}ザリ^ルる^ル後^{ノチ}未^マ亡^シ人^ト
乃^ハ秘^ヒ方^{ホウ}を傳^ツへて^テ疔^チを金^{カネ}と膏^{カウ}を練^ネ膏^{カウ}を
阿^ア方^{ホウ}が^ノみ^ミ多^タり^ルと^ル故^ユに^ニ阿^ア方^{ホウ}が^ノみ^ミと^ル多^タり^ル
遠^{エン}途^ト買^カ来^キ者^{モノ}日^ヒ表^{ヒヤク}紙^シと^ル多^タり^ル
と^モき^キら^ラく^ク

長^{チヤウ}四^シ饅^{マウ}

佐^サ波^ハ島^{シマ}町^{チヨウ}大^{ダイ}門^{モン}に^テ傍^{ナリ}に^テ饅^{マウ}屋^ヤ長^{チヤウ}四^シ饅^{マウ}と^ル
名^ナ製^{セイ}して^テ長^{チヤウ}四^シ饅^{マウ}と^ル多^タり^ル天^{テン}和^ワれ^ルは^ハう^ウお
續^ツして^テ迄^チと^ルは^ハま^マど^ドば^バん^ンど^ドや^ヤ傳^ツち^チら^ラと^ル多^タり^ル
来^キり^ルに^テ尚^{ナウ}時^ジと^ル多^タり^ル

信^{シユ}濃^{ノウ}屋^ヤ甚^シる^ル麦^{マク}麩^フ

瓢^{ヒョウ}箆^{ヘイ}町^{チヨウ}之^ノ丁^{テイ}目^メ東^{トウ}隅^クと^ル多^タり^ルの^ノ也^ヤ茶^{チャ}と^ル多^タり^ルは^ハ切^キ
を^シ業^{ギヤク}と^ルに^テ寶^{ホウ}と^ル水^{スイ}と^ル徳^{トク}の^ノは^ハ登^{トウ}と^ル多^タり^ルと^ル多^タり^ル保^{ホウ}の^ノ
失^{シツ}火^カ後^ゴ流^{リウ}経^{キョウ}と^ル

女^メ印^{イン}饅^{マウ}頭^{トウ}

瓢^{ヒョウ}箆^{ヘイ}橋^{キョウ}西^{セイ}結^{キツ}小^{コウ}店^{テン}紙^シ搦^{ナク}買^カ世^セ俗^{ソク}物^{モノ}
町^{チヨウ}橋^{キョウ}れ^レよ^ヨの^ノ印^{イン}と^ル多^タり^ルと^ル多^タり^ル買^カ世^セ俗^{ソク}物^{モノ}
多^タり^ル

阿^ア澤^{ザク}菽^{シク}乳^{ニユ}

三十二

依後清町東より二丁目十字街西隅宝永
年中八百五拾五清とらみ廿九を能制する
夫有と云ふ頼乃依云清とらんで頼叔乳
ともは妻阿保其兼は絶ぐ阿保だぬぬ
とらむ甚能製てまみ勝を系不故と澤お
あはるくよぐり其子と清字保れ末没く
其まも共と絶あり

二社擲錢

新町橋西結ちげざん之社と云俗は彼

駿者有と云と清勝院と号一錢を投て者出
そと高をたるとん新み附と

故事第八

局門幟

賤校れ店局とらみ考と一書にそく
其戸は塞れ門幟付者官家乃免許
得るは塞れ不叶彼家より出る門幟
の布尺は尺三幅縫分二所み掛子草は凡
結有り中は末代不易の許命と得て自

分寒^{ぶんかん}変^{へん}くはありて法^{ほふ}式^{しき}を廢^{へい}失^{しつ}く
緋^ひ際^{さい}と云^いふと此^{こゝ}謂^いふと新^{しん}造^{ぞう}み出^いる也^{なり}
許^{こゝ}命^{めい}の技^{わざ}乃^{すなは}部^ぶみ入^いるに由^{よし}りて深^{ふか}膠^かまる緋^ひ
深^{ふか}乃^{すなは}門^{かど}幟^{しほ}み紅^{べに}絹^{きぬ}乃^{すなは}仇^{あだ}結^{むす}瓜^{うり}はけ奉^{ほう}わらふ
又^{また}紋^{いづ}日^ひ方^{かた}と門^{かど}幟^{しほ}張^はるなりておま^{おま}の懸^{けん}下^{した}代^{しろ}平^{たい}
日^ひ方^{かた}も兼^{けん}約^{やく}乃^{すなは}日^ひ柄^{がら}此^{こゝ}に日^ひ々^{々々}あり

惣^{そう}判^{はん}形^{がた}

例^{れい}年^{ねん}正^{せい}月^{げつ}十^{じゅう}八^{はち}日^{にち}古^こ代^{だい}より此^{こゝ}例^{れい}くはて懸^{けん}草^{そう}町^{まち}
會^{かい}家^けに餘^よ町^{まち}不^ふ張^{はり}合^あ集^{じふ}て判^{はん}形^{がた}を取^とり

木^き村^{むら}屋^や又^{また}決^{けつ}命^{めい}と云^いふ屋^やなるに由^{よし}りて高^{たか}町^{まち}
曲^{まが}中^{なか}不^ふ張^{はり}集^{じふ}て判^{はん}形^{がた}と云^いふなり此^{こゝ}は熱^{ねつ}判^{はん}
と云^いふ付^つ古^こも判^{はん}形^{がた}終^{はつ}く衆^{しゆ}衆^{しゆ}をどありて
懸^{けん}おまの懸^{けん}下^{した}代^{しろ}平^{たい}

浪^{なみ}古^こ敷^{しき}

寛^{かん}永^{えい}永^{えい}末^{まつ}まはるに實^{まこと}上^{かみ}刻^{くわく}成^{なり}りて限^{かぎ}古^こ敷^{しき}
くはるくはるに和^わの海^{うみ}日^ひに量^{りやう}の敷^{しき}花^{はな}自^{みづか}然^{ぜん}
と深^{ふか}深^{ふか}は板^{いた}何^{なに}と云^いふと實^{まこと}下^{した}刻^{くわく}子^こ上^{かみ}刻^{くわく}と云^いふ
ぬ古^こ代^{だい}も霜^{しも}月^{つき}朔^{しやく}日^{にち}より極^{ごく}月^{つき}晦^{まい}日^{にち}まで

ハ登りて各々をりりめて表らぬを〜故に普普も
限る鼓を〜ら入門娼家ら〜く行燈を
とり入門戸を閉り〜局には火鉢を〜垂を
表を〜に顧老愚来歸去せん〜失
とよめ〜其く紙進出や〜の知〜紙紙
學也所入の〜客不残去られ紙限〜付
享保火後火の用〜西〜炭火を〜禁ト
ら家瓢箪町頭町をらふよう〜袋町分限り
右鼓撃初〜其音紙付他〜て餘町進〜

沼の刻限紙告

上吉候出

元禄のはす〜に折〜有後出ふ付極〜由緒有
倡屋方主家みんぬ〜屋〜と作〜有申

親進左鼓

瓢箪町二丁目十字街より西口大門の弁立
賣塙の出入り〜は親進左鼓ある〜川魚
戲場乃〜替左鼓を〜し〜打止申結あり
竹中家ら〜支戲場ハ左鼓撃之を清〜ら〜

享保三十一

是人古格紙守てうら止通家たり餘る
旧例を知らずまやうら撃手通家たり

回番

上古警茶れ附誼詭口論をも有るに構
を持出て其論を徒止と旧例より今
至る酉戌亥子辰四刻み回ら紙回り番
と云

番人改人

瓢箪町東西二門 諸方二門平生奴船奴

門外に出れ皮を改み付府與て仕還る
者門内へ入るは差金ども出るとは府與乃
巻紙巻上通るるとは府與撰乃仕はしん
仕られ府與に云

佐後屋町成瓢箪町支配地由来

町名景勝れ篇より出るとは佐後屋忠去湯不
持ら後之賣権完喰屋果中へ隠居屋鏡
と云此所本村屋又は命と親き間をれと支
配を新由より今よりありて瓢箪町支配地

とある寛文の比とや完喰屋ハ之賞格格
名に海賊而已

瓢箪町通不立端午幟由来

故傳諸説有て未使姑置而不論

衣裳着

例年臘月下旬ハ毎妓院ト行交なり

突ハ改旦妓ト云々ト云衣裳を穿也又まか

下離妓まで列して其品を穿る者ありて

依はハ家ノ乃風有て其論不一日故と云

〜に贅言

新話第九

朝鮮人來曲編

寛文七年中倭陽より漆屋正方と云る人

尚不新撰町ニ移居新撰町ハ今ハ河波下ニ町此方

が妻若中花清門民屋東條花清門方ハ此方兩身ニ環れ

孔有此故ト云其ハ素那の朝鮮人ト云方ガ宅ト

居て二ツ方ガ妻氏お此所新撰町今ハ河波下に

屋榮者志み入と合事なと仕と其後朝

解人來羽布とらんど正方う妻取生れるハ假
町ハ大門園了ちて異國人ハ性來を禁じ正方
妻没後高不大門園了此法あり

郭下方言

元文寛保ハはまどハ古風遺て辰本屋紙ど
府屋とせん風者田舎をさぬ京屋紙ど
屋を明林大和屋紙和列ハ屋をさん
たどすじ用しハ今はあまハ
主人乃正字と取合てハ
まも

奴風とて顧老をほら女を上女とい
ハ圓紙勤老を下女とい通年町於女乃
場あう下女といハ入込年ハ
顧老の方より下女を伴居ハ
成りて古語ハ失顔物ハ
どハ

性者雪端雪所臺由來附二齒下駢
姓女ハ履履ハ者ハ雪端雪履ハ
を元禄ハ辰本屋來由ありハ

此の草履下駄に代又新造なり長けり
中より二箇下駄を踏しは逆は異體れ
仕出下駄發行と事敷乃多しより
高底の履物なく二箇下駄とは如く
也

似城町床障

元禄年中新永橋町立屋京收在り床障一辺
有且比江列後架れ郡之并有り亦あり
去り不讓即一辺あり并有り亦あり
障より由名登かる也よらに裁と

綿屋六右衛門

瓢箪町西口大門少く東南が綿を打敷
綿屋六右衛門の者何れ事や六右衛門
で人あはれ六右衛門にて通稱と

大内葺

佐波崎町二丁目小横町葺屋匠七といふ者瓢
箪町北丁目街頭小店匠白といふ乃馬
賣元来条をぬき今綿屋乃水一世人大内
とて世に發りといふ中又内葺匠

かりき保れ末元文の初段で高名は信せし
諸店との甚き賣子やうふあうあうや高名は退
て今れ信不詳

夕霧伊左衛門事實

夕霧伊左衛門は、藤屋伊左衛門とて、人々の戯場
乃劇文に書て、又一人あり、劇文我、又右田屋
本名の方にて、河波の顧老に、西説有依て、
川魚伎より、伊左衛門に、初代板田屋、
ありし中

梳久事実

梳久は、子別れ人者、戯場は、信せし、
多し加志久は、附合、信せし、
かしくと、又、或、段、家、果、を、
片膚、段、然、枝、の、先、より、
互て、合、段、乞、下、女、通、
といひ、信、内、より、
寸、除、来、れ、
長、左、衛、門、
方、の、顧、老、
附、合、
は、
戯、場、
信、

若し彼ゆかり振久と別人なり

助六事実

名氏不詳観場ハ儼文ナリトベシ

備前屋清川事実

佐波崎町彼前屋京抱清川を厚令文七より名
殺と云ふ清滝と云ふ品は妓なり多分
習て川原伎又用白清滝ハ元禄年中此妓なり

京屋阿琴事実

元禄比佐波崎町京屋京抱於琴と云ふ天職

有遊世と云ふ浮屠又帰依を具此家系より系
飛脚は振きハ膝下にて控琴と云ふ合セハ若
を識ハ若れ先ハ歩よりハ上ハ不潔内人育
より受を云ふ

似城賞

夕考を川原伎ハ組坂田孫十郎ハ伊
浦ハ成りて紫縮緬ハ清く既中ニ若
川原伎ハ似城買ハ役を以てハ
既中ニ着袴と云ふ

掛小舟

元文は比まぐへ川舟船妓上女入門はゆて
顧老を迎へぬ出る事と平日と異なる様
嬖悪を顧老陽句も付紙はけ紙友皆
此受迫代絶るなり或宗函にほどきまへ
きやくはけ小虎屋に店に掛小舟

格子見せ

右丈の通号を格子と云ふ小玉紙は下ア
と云ふなり

丸屋小舟士受取

宝永三徳お比丸屋小舟士と云ふ右丈あり
道中へ出んと云ふと一羽猫小舟ト云ふ衣取
れ船と雷付不歌小舟士へ因縁と云づく
有るけし氣付て並に担帯と加縁を渡す
て丸人の取勢とある料紙現をい出さく
和舟船籍を書ししるに舟中にも不愛意
違ふ顧老より賜答れ和舟連飲れ附合る
借して還る真不真とありてきやくも三合紙

遊あそび程ほど乃なり夏なつたりら狂くる氣まもも其その好この道みちもも其その身み
と精せい神しん止とりり也や

丹波屋井名記

丹波屋井名あまのうゑい乃なり天和貞享てんわしんかうまがらら中ちゆう一いつ月げつ揚あげ結むす其その客きやくハ
かゝるかゝる一いつ年ねん之のねねよよ一いつ今いまおお話はなととん

繪屋書素好奇

繪え女にょああののままのの保たも元もと文ぶん古こ異い風ふう紙し好この發はつハハ徳とく田でん前ぜん
画えれ解と括くわ紙し子こ仕し立たれ衣い裝そう雜ざつ妓ぎノノ書しよ々々務む紙し
持もり近ちか代だい乃なり異い妓ぎちちりりととん

大坂屋淺茅生絡

大坂おおさかや淺あさらぬらぬええぐぐ言こと中ちゆう一いつ全ぜん登と氏うぢ好この妓ぎハハ自みづか
客きやくノノ換かててままららんんとと其そのおおととん

又次石碑

下寺町淨土寺かみでらまちじやうど有あり

茶屋寄進唐戸附石碑

大淨園寺おほじやうえん本ほん市し丸まる唐たう戸このの茶ちや屋やれれ寄よ進しんとと新しん屋や
浪なみ乃なり青あお標ひょう志し 畢

拾遺

蛙沼

寛文六年鎌田氏日記云元和初比又治良
 許命者乃て郷地記給乃加地中か之を
 陸出て又治良先述々案内と具治又文字
 強やり又治良与風己高利りり大郷造立
 の文字あり依此地と造立やあつると大
 日記幸旨約落学造き治治と今爰又
 附と指知ハ佐後屋町分瓢單小路の辺あり

〇四十四

浪花青樓志拾遺

嗣出

ス

ナ

